

畜産クラスター事業を活用し規模拡大した酪農場への対応：伊那家保 青木 一郎

平成 27 年度畜産クラスター事業を活用し、2 戸の酪農場で牛舎を新築（以下 A 牧場）または増築（以下 B 牧場）し増頭。平成 28 年 4 月から 11 月まで県外から 144 頭導入。平成 28 年 11 月出荷乳量は 2 農場で前年比 2 倍に増加。規模拡大支援として、環境測定、繁殖検診、代謝プロファイルテスト等を実施。環境測定は、A 牧場と近隣の牛舎（以下 C 牧場）に温度データロガーを設置し、1 時間毎に測定。A 牧場は、5 月 19 日から 25℃以上の時間が多く、5 月 23 日 15 時には 30℃となり、C 牧場より 3.1℃高かった。関係機関とともに検討して、ダクトファンを設置し、細霧が牛体にあたるようにした結果、8 月上旬には C 牧場との差は約 2℃減少した。また、9 月に代謝プロファイルテストを実施し、繁殖検診や人工授精時の卵巣や子宮の状況等から、分娩してから受胎するまでの牛に、10 月からアルファルファの追加給与を実施し受胎率向上を図った。